

嫁と姑をひきつり起し、後手にひつく、り、胸元べぬきみをつき付、小體なれど金はありさうな  
内、有所をぬかせばよし、さもなくば今二人ともさし殺すと、いやおうならぬ命のつばぎはに○  
略 嫁があまり是はどうよくなといふ口を手拭にて縛り、○下

〔世事見聞録六〕遊里賣女之事

儲昔の如き優に艶しき志ある遊女は一人もなく、○中 己が身心惱亂したる儘に、我人を語らひ、  
或は出奔せんと欲して窓を破り、屋根を傳ひ、或は土臺を潜り、塀を越、堀を涉り、杯する迎、見顯は  
されて折檻に逢ひ、又は逃課せて隠れ居るを捜し出され、是等公邊へ訴出れば、○下 欠落のみ不  
埒に成て叱り答られ、譯もなく引戻され、扱此時の仕置は別て強勢なる事にて、或は竹篋にて絶  
入迄に打擲き、又は丸裸に成し、口には輿のごとく手拭を喰せ、支體を四つ手に縛り上げ、梁へ釣  
揚げ打事也、○下